

「心に余裕」ができる場所

東洋英和女学院高等部 3年

中村 芽李衣

私達の学校では毎朝礼拝があります。全生徒がチャペルに集まり、讃美歌を歌い、信仰者の先生のお話を聞き、そして祈ります。しかしこの沈黙の数分間、皆は一体何を思っているのでしょうか。勿論神様にお願いをしたり、何かの懺悔をする人もいるでしょうが、私は「無心」であることの方が多岐に感じます。次の小テストのことも、さっき友達と話したことも全て頭からは消えて、ただ静かに目を瞑り、神様へ祈るのです。近頃は子どもでも交友関係や勉強のことなど、考えることや考えなければいけないことがたくさんあります。そんな中、何も考えないで「無心」であることは、実は結構貴重ではないでしょうか。

また私達の学校には、倫理の代わりに聖書の授業があります。この時間は他の授業とは少し違って、ビデオを見たり、先生のお話を聞いたりして各々思ったことを、自由に発言します。また時には先生の奏でる讃美歌に耳を傾け、クラスの中にゆったりとした時間が流れます。私はこの空間が、どの授業の時よりも一番大好きです。

学校での聖書の教えには様々なものがあります。『神様を信じることだけが救いへの道だ』『貴方を愛して下さる神様を愛しなさい』どれもとても大切なことだと思いますが、たまに私達の頭がついていかないこともあります。けれどそんな時、学校は無理矢理にそれらを私達に信じ込ませたり、実行させようとするのではなく、きちんと私達が理解をし、自分から信じようとするまで待ってくれます。キリスト教は宗教のひとつですが、学校は決して強要するのではなく、私達の考えを受けとめた上で待っていてくれる、そんな優しさがいつも感じられます。

常に向上し続けることを強られるこの時代、絶望したり追いつめられて自殺までしてしまう人が大勢いる現代の日本で、一体何が一番必要なのでしょうか。私は「心の余裕」だと思います。心に余裕をもって初めて、人は誰かに優しくしたり、何かの為に奉仕したりできるのだと思います。しかし「心の余裕」はひとりでには生まれません。日々の生活や環境、誰かに優しくされた経験によっておのずと生まれてくるのです。

私達の学校にある、礼拝での無心となれる祈りの時間や聖書の授業のゆったりとした空間、包み込んでくれるような優しさ、そしてそんな環境の中で過ごす生徒同士の交わり。この中で成長した私達は、きっと「心の余裕のある」大人となることができると思います。